

文教福祉常任委員会

(令和7年1月16日)

文教福祉常任委員会

午前 11 時 27 分 開会

○福森真司委員長 ただいまから、文教福祉常任委員会を開会します。

本日の会議につきましては、タブレット端末に掲載した日程により進めさせていただきます。

それでは、2. 協議事件（1）安心して子育てできる環境づくりに向けた政策提言についてを議題といたします。

資料 1 を御覧ください。

12月 1 日に実施いたしました意見交換会を踏まえまして、各班から出た意見をあらかじめまとめさせていただきましたが、各班から補足がありましたら、この場でお願いします。

まず、1 班、中村委員。

○中村知也委員 当日はたくさんの意見をいただきました。私たちは何かを造るような方向で話をしてきた流れがあって、そういう感じで進んできたところではあるんですけど、意見交換をした中では、皆さんやっぱりソフト的な政策を期待されているのかなというところが非常に印象的でありました。

あと、ぽけっと21などの充実をしてほしいというお話もあったところが大きなところかなと思いました。

○福森真司委員長 2 班、桑原委員いかがでしょうか。

桑原委員。

○桑原昌之委員 まず、現状の中で一番大きかったのは、現状のところの 1、2、3 と見ていただけるとお分かりになるとおり、非常に施設の利用面で利用しにくい現状があるということ、もちろん、ここに書いていないですけど、施設の老朽化とかいろいろなものも含めて、それから、子供だけで何か動くというところの社会的な状況も含めて難しくなっている現状があるよってということで、遊び場がないというのが、これが共通の、いわゆる子供世代の中・高生までを含む大きな課題です。当然のことながら、そうなってくると、学習場所が不足してくる問題があって、さあどうしようということところが現状の中で、提案の中では、遊び場としての新拠点、いろいろ複合拠点とか複合的な施設も含めた形でやるといいなということで、本市の特徴を生かした、例えばボルダリングもそうですけど、それ以外にもあるかと思うんですが、そういう施設を造るということ、あと、どうしても屋内ということに目が行っていましたがけれども、やっぱり屋外、屋上って書いてありますけど、外で遊ぶスペースの充実も図るということが必要だなということで、日本屈指の森林観光都市を目指すと公言しているわけですから、当然のことながら、そういう山も見えるところの中で、自然を感じながら子供たちがしっ

かりと育っていくような環境づくりのために、施設とそれからソフトの充実を図りたいということとかが出ていました。

○福森真司委員長 ありがとうございます。

その他、意見はございますか。

〔「なし」との声あり〕

○福森真司委員長 次に、資料2を御覧ください。

同じく、12月1日に行われました秦野こども未来づくり会議に参加をしていただいた児童・生徒に対して実施したアンケート結果をまとめたものになります。

これにつきましては、議会局から説明をお願いします。

議会局書記。

○議会局書記 資料2につきまして御説明させていただきます。

まず、上のほうにグレーでQ2と書いてあるものは、アンケート用紙の質問項目と一致しております。

1つ目の習い事をしているかという質問項目に対しては、小学生の回答は23人で、そのうち83%の人が、中学生は15人が回答し、そのうち87%の人が習い事をしているということでした。また、頻度については右側のほうにございますが、週3回以上というところで見ると、小学生が約60%、中学生が約55%の人が、週3回以上の習い事を行っているという結果でした。

次に、2ページ目を御覧ください。

普段遊んでいる場所という質問に対しては、オレンジの枠で囲っておりますが、家で遊ぶという回答が、小学生約30%、中学生も約35%という結果で、右側のほうの回答では、家でゲームをして過ごすという人が、小学生約40%、中学生約30%という結果になりました。

3ページ目を御覧ください。

各施設の認知度を質問した項目になりますが、まず、はだのこども館については、小学生だと約55%、半数以上の人が施設をそもそも知らないという回答でした。中学生でも知らないと回答したのが約40%ということで、こども館に対しての認知度は低いのではないかという印象を持ちました。

一方、4ページ目ですが、まず、左側の公民館につきましては、グラフで示されているとおり、小学生約96%、中学生100%の人が行ったことがあるという回答で、右側の児童館につきましても、小学生約65%、中学生約70%の人が行ったことがあるという回答でした。

5ページ目を御覧ください。

市外にも子供の遊び場、海老名市や平塚市などがあり、そういうところをイメージして、行ったことがあるかという質問をしたところ、小学生、中学生共に約半数以上の人

が行ったことがあるという回答でした。

6 ページ目を御覧ください。

多世代交流に必要な場所は何かという質問をしたところ、左側の小学生は、オレンジの部分で、プレイルームという回答が約25%で一番多い一方、中学生のプレイルームという回答は左上の濃いめの青部分ですが、19%という結果でした。中学生で一番多いのは、オレンジの部分で多目的ホールが約25%と一番多かった形となります。

7 ページ目と8 ページ目に関しては、新しい拠点に欲しいものであったり、既存施設に欲しいものを自由記載で求めた結果となります。こちらは、抜粋ではなく、頂いた回答を全て載せさせていただいておりますので、後ほど御確認いただければと思います。

以上です。

○福森真司委員長 ありがとうございます。

意見交換会で出た意見と、資料2の児童・生徒に対して実施したアンケート結果につきましては、提言書を作成する際の提言事項等に参考とさせていただきたいと思ひますし、一応データもつけるように、政策提言の提言書をまとめた際の資料として入れたいと思ひています。

今は、色分けで強調しているんですけど、掲載方法は少し考えたいと思ひますので、その辺は後日お知らせさせていただきます。

ほかに、皆様から御意見ございますでしょうか。

桑原委員。

○桑原昌之委員 アンケート結果については、非常に分かりやすく書かれているんですけど、参加している子供たちの属性の中で、当然、小学生・中学生の何年生とかあるんですけど、この会議に集まっている子は、おそらくですけど、習い事に通っている割合が高い子供たちが来ている。選ばれし子供たちが来ているので、要は、どんな会で集めた子供に対して、アンケートを取ったかというところの注釈がどこかにあったほうがいいだろうなど。いわゆる聞いている人数が少ないんですけど、本来はもう少し広く取りたかったけど、これまでの調整経緯もあるので、どんな会で集まった子供に対してアンケートを実施したか、あくまでも参考までにアンケート結果を提示するという、なんかこれだけが独り歩きしては怖いので、書きたいなと思ひます。

○福森真司委員長 他にございますか。

〔「なし」との声あり〕

○福森真司委員長 ただいま桑原委員から言っていたように、このデータが独り歩きしてはいけないので、補足をつけるようにしていきます。

次に、資料3でござひます。

以前にもお示しした骨子案を基に、概要を作らせていただいております。

資料について、議会局からまずは説明をお願いします。

議会局書記。

○議会局書記 資料3について御説明させていただきます。

1 ページ目に関しましては、前回の常任委員会でお示ししている構成案という形になります。

2 ページ目を御覧ください。

初めにの部分では、上のほうが行政側の考えているものになります。市のほうでは、都市像の実現のためであったり、持続可能なまちづくりへの転換を図るために、子育て支援の充実が重要と考えていることをいろいろな計画等で記載されております。

これを受けまして、委員会として今回の政策提言のテーマに「安心して子育てできる環境づくり」というものが選ばれた理由を、こう考えたのでこのテーマにしましたということを記載する必要があると思っております。

その記載後に、子育て世代が秦野市で子育てしてよかったと思えるまちとなり、若い世代も秦野市に住みたいと思ってもらえることを期待するなど、今後の展望についても触れる形で記載していくほうがよろしいのではないかと考えております。

次に、3 ページ目の協議の経過を記載する部分におきましては、これまでの委員会で協議を行った経過について、全て記載する予定です。今、資料で記載しているものは抜粋した一部の内容となりますが、それ以外にも常任委員会を毎月開催しておりますので、表などでお示しする予定です。

次に、4 ページ目から6 ページ目にかけてでございますが、こちらは本市における現状と課題をまとめているものになります。これまで総合計画を軸にいろいろと協議いただきましたので、各基本施策の目指すまちの姿に対しての現状と課題をそれぞれ記載していく形で提言書を作成していくほうがよろしいかと考えております。

7 ページ目は、各基本施策を全体で見た時に、子育てに関する課題と、その課題解決に向けてのビジョンというものを現状と課題の最後の部分に、まとめという形で掲載するほうが見やすいかと現時点では考えております。

次に、8 ページ目、9 ページ目の調査検討の経過の部分でございますが、8 ページ目は昨年5月に行いました所管事務調査を踏まえて得た気付きを、3市にわたって簡潔に記載しております。また、9 ページ目は、細かい部分を記載していないのですが、12月に実施した意見交換会を踏まえて得た気付きについて、今回、資料1で報告いただいたことも踏まえてまとめていく予定です。

次に、10ページ目ですが、政策提言の部分となります。こちらは、それぞれの提言を具体的な事項を含めて掲載することを予定しております。こちらの具体的な提言事項につきましては、後ほど御協議いただければと思っております。

最後に、11ページですが、終わりの部分では、市が掲げている5つのリーディングプロジェクトはどれも大切だが、特に子育て環境を整備することで、本市への移住・定住、

また地域のにぎわい創造につながるのではないかと御意見であったり、子育てに関連する部署だけでなく、全庁的に施策や事業を行っていくことが重要という御意見をこれまでの委員会の場で皆様からいただいておりますので、そのようなことを踏まえて、まとめという形で提言書を作成したほうがよろしいかと考えております。

以上です。

○福森真司委員長 ありがとうございます。

できるだけ、これまで協議を重ねてきた所管事務調査もそうですし、皆様の思いは本当にお伝えしていきたいと思います。最終的には、移住・定住、子育てしやすい環境につながればということだと思いますので、正・副委員長のほうでも皆様の御意見を使わせていただいて、議会局と一緒に作っていききたいところでございます。

この中で、こういうものも入れてほしいということもありましたら御意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

桑原委員。

○桑原昌之委員 7ページと10ページを見ながら思ったことですが、安心して妊娠・出産・子育てできる環境づくりをするために多世代交流が必要であるという捉え方で合っていますよね。

新たな多世代交流拠点の施設を設けたり、既存施設の活用を充実させていこうということ合っていますよね。

○福森真司委員長 そうです。

桑原委員。

○桑原昌之委員 そうであれば、10ページのところに、安心して妊娠・出産・子育てに関係づけていくみたいなものがあつたほうが、多分どこかに入っているといいのかなと思っていて、書き方の問題なんですけど、より分かりやすいようにしたほうがいいだろうなと思いました。要は、一番避けたいのは、なんでまた施設を造るんだよって思われちゃうかなと。何か、改修とかばかりやっているという、本来の目的が流れちゃうと嫌だなと思いました。

○福森真司委員長 ありがとうございます。

他にございますか。

〔「なし」との声あり〕

○福森真司委員長 大きな流れの中ではこんなイメージをしていますけど、実際にこれを執行部のほうに提出していくとなりますと、今、桑原委員がおっしゃっていただいたように、10ページ目が実際には重要になってきます。提出に当たっては、現在のこども館が果たしている機能とありますが、これを執行部に伝えても、どうすればいいのかと思うと思うんですよね。なので、現在こども館が果たしている機能の中で、こういうふうにしてほしいとか、追加してほしいとか、例えば、子供たちが寄りやすいような格好

にしてもらいたい。ここで安心して子供たちは、なんて言うんですかね、交流ができる場にしてほしい、そういったことを付け加えていくことが一番いいのかなというふうに思いますけど、そういったところも踏まえまして、提言１と提言２に皆様の御意見をいただければと思うのですが、いかがでしょうか。

石川委員。

○石川潤委員 １班、２班のまとめを見た印象ですけど、２班ともソフト的なものというのを重視されていましたよね。それをもう少し考えて、具体的なものがあれば何か入れたほうがいいのかなと思いました。

○福森真司委員長 石川委員がおっしゃっているのは、例えば、図書館やカフェという項目がありますが、新拠点に設ける場合、どんな場所でどんな形でという若干イメージとして具体的なものがあつたほうがいいのかなということを踏まえての御意見ですよ。

既存施設の中には子育て支援の窓口とありますが、それもイメージですよ。こういうふうにやっていただけると、来た人たちが安心して相談できたりとかということだと思えますよね。そういったところも、皆様から意見をいただきたいので、今日出ないところにつきましては、班ごとに打ち合わせていただいて、スケジュールの都合もありますので、できたら今月末までにはまとめて、正・副委員長で調整後、提言の細かい部分まで入れ込んでいきたいと思います。

石川委員がおっしゃっていたように、ソフト面だけでなく、具体的な部分も盛り込んでいきたいのですが、そこは皆様の御意見をいただかないと作り上げていくこともできないので、今日資料を見ていただいた中で、提言１と提言２の６項目の中で、これはこういうふうにしたいという意見があれば伺いたいのですが、いかがでしょうか。

小菅委員。

○小菅基司委員 一時預かりについては入れてほしいな。

○福森真司委員長 おっしゃるとおり、一時預かりは非常に少ないですもんね。

横溝委員。

○横溝泰世委員 一時預かりって保育園全部でやっていないのか。

○福森真司委員長 やっているところもあるけど、全部じゃない。特に、民間はやっていないところが多い。

間地委員。

○間地薫委員 提言１の３個目のワンストップ相談窓口ですが、子供が育っていくことによって、担当部署がばらばらで分かりづらい。言葉の例えとして合っているか分からないが、おくやみコーナー、お悔やみ窓口って本市にあるじゃないですか。そういう感じで、ここに連絡すれば、次はどこと案内してもらえるような、ここに電話をかければ、次にどこの窓口に行けばいいか分かるという窓口が１つあると大変ありがたい。子育て

しながらだと、自分で検索して、ここに行くんだと、一つ一つやることになるので、そこに電話をかければ全て教えてくれるようなワンストップ相談窓口があると大変ありがたい。

○福森真司委員長 1つの窓口で完結できるようにということですかね。

間地委員。

○間地薫委員 紹介してもらえそうなイメージです。

○福森真司委員長 例えば、本庁舎と別の庁舎で分かれているので、それをできたら1つに集約してやっていただければ、そこに行けば分かったか、電話をすれば分かるということですよ。

間地委員。

○間地薫委員 1つに集約するのは難しいと思うので、ここに問合せをすれば、どこに行ってくださいと案内だけでもしてくれればありがたい。

○福森真司委員長 今はしていないんですかね。

間地委員。

○間地薫委員 教育委員会は教育委員会。学校に子供が通っていると、補助の関係は教育委員会に全て提出する。提出先が皆ばらばらなんです。

○福森真司委員長 ありがとうございます。

中村委員。

○中村知也委員 私はやっぱり図書館がいいなと思いまして、生涯学習の拠点として、ただ並べて陳列するのではなくて、学習のサポートができるような、ちょっとした専門知識の方が居たり、毎日そういう人を置くのは難しいでしょうけど、日を決めて、先生みたいな方にそういうものを手伝ってもらいたいイメージで、市民が学ぶことが楽しくなって、情報をアップデートできるようなものができたらいいなと。

商工業のこともそうですし、起業をしてくれる人が多くなったらいいなと思うんですけど、いろいろな難しさはあると思うんですけど、やっぱり知識を得てから何かが始まるというところはあると思うんで、そういったものが進んでいくようなものを。

○福森真司委員長 イメージでいいので、具体的に、こういうところにこういうものがあるといいというような意見が欲しいのですが。

中村委員。

○中村知也委員 例えば、今、投票率が低下していると思うのですが、私の問題意識だと、皆さん何が何だか分からなくなっていると思うんです。政治だとか、そういった社会的に何が起きているのかとか、日本人としてどうありたいかとか。そういった手助けができるような公民教育でもいいですけど、公教育を受けてそのまま出て行った段階で、世の中ありとあらゆるコンテンツに溺れていく中で、そういったすごく大切な政治的な教養とかが軽視されがちというか、なんとなく大切だという思いがありながらも後回し

になっているという部分もあったりするので、そういった情報を得る場であったりとか、家族のつながりでもいいでしょうし、何か失われているものを足していけるような。

○福森真司委員長 それはどうやって図書館と結び付けていくんですか。図書館の機能の中に、そういったようなコーナーを設けたほうがいいんじゃないかという意見ですか。

中村委員。

○中村知也委員 そうですね。政治のコーナーとか。

○福森真司委員長 横溝委員。

○横溝泰世委員 中村委員が言っていることは高度な御発言なものですから、頭の中でイメージできないんだけど、生涯学習の関係を含めて言っていると思うから、そこをちょっと外して、今回の子育て支援という視点に戻ってきたほうがいいと思うということが一つ。

もう一つは、前から話しているように、それぞれの施設の活用の在り方をもう一度横断的に議論したほうがいいのか。執行部を交えてでもいいんですけど、縦割りの活用の仕方であって、それがいつも空いてしまっていたり、教育委員会の問題もありますけど、子供たちがそこに行くことができなかったりとかあるので、それを十二分に協議をした上で、活用の在り方を探っていったほうが先ほどから出ているソフトな面につながってくるんだろうと思うんです。

だから、そのことをもう一回対応しなきゃいけないかなと。

それと、先ほどの件で、議会局でちょっと確認できるかなと思うんだけど、相談受付窓口の関係は、各保育園等でやっていると思う。障害であれば我々もやっているから、地域の中で相談を承って、そこににつなげていくという、ここに連絡してこうしますから、こうしてくださいと言ったりしていますから、その辺をちょっと調べてもらえればありがたいと思う。そうすると、その辺を含めて、今後の課題として、そこに載せながら持っていくことができるから、要するに、充足させることもできると思うので。

○福森真司委員長 ありがとうございます。

今、当然ワンストップ相談窓口につながるのだと思いますし、中村委員がおっしゃっていたことは、既存の施設の使い方というところで、現状はこうですよ。実は帰りがけに子供たちが寄れない現状があったりだとか、家にまっすぐ帰りなさいという指導をされているからこそ、子供たちも真面目に帰る。でも、本当だったら、子供たちと一緒に寄ってそこでコミュニティーを図りたい、多世代との交流もやりたいけど寄ってはいけないという現状があるので、そういうことを言いたかったと思うんですよ。

だからこそ、そういったところの改善も含めて、教育委員会との連携とかだと思いますので、そういう点もまた付け加えさせていただいて、少し精査したいと思います。

横溝委員。

○横溝泰世委員 アンケートを取っていただいてありがとうございます。最初から意

見を言えていない自分もだめだなと思ったりもするんだけど、少し気になったのが、小学生や中学生の公民館の認知度、中学生は100%で公民館に行ったことがあるとなっているじゃないですか。どんな目的で行ったのかということを知っていると、さらに分析していくことができるかなと思ったので、それは今後の課題にしてもらえればありがたいです。

○福森真司委員長 まさに桑原委員がおっしゃっていただいたとおり、これが一方通行になって、この情報が独り歩きしてもいけないと思うので、その辺を少し説明するなど対応していきたいと思います。

本日はたくさんの御意見ありがとうございました。

そうしましたら、今後のスケジュールですが、資料3の12ページを御覧ください。

今回がこの赤枠で囲われている部分でございますけど、できましたら今月末までに協議した意見を踏まえて作成したいというふうに思いますので、2班は1月31日に集まっていたらということで、1班はこの後日程を決めたいと思いますが、各班で忌憚のない御意見を頂いて、さらにブラッシュアップしていきたいというふうに思います。

その後のスケジュールでございます。3月10日、議会も始まっておりますが、提言書（案）を委員会で決定させていただいて、4月には提言書の概要をお示しして協議する予定です。そして、5月には議会全員協議会を開催し、提言書を確定していき、6月には市長に提出するというふうなスケジュールで、3常任委員会で足並みを揃えていきたいというふうに思います。年度内には、委員会で確定させていただきたいと思いますので、ぜひ御協力のほどよろしくお願いいたします。

以上となりますが、委員の皆様から何かございますか。

〔「なし」との声あり〕

○福森真司委員長 議会局から何かありますか。

○議会局書記 次回の開催について御連絡いたします。

資料3の12ページに記載ありますとおり、2月14日・金曜日、議員連絡会終了後の開催を予定しております。

ただいま委員長からありましたように、次回には提言書（案）という形で、ページ数はまだ分かりませんが、写真とかグラフを除いたとしても、それ以外は記載できている状態の提言書（案）を来月にはお示ししたいと思っています。その際には、今月末までに皆様からいただく御意見を反映させたもので提示したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上です。

○福森真司委員長 次回は皆様に御提示したいと思いますので、御意見は今月末までによろしくよろしくお願いいたします。

それでは、以上で文教福祉常任委員会を閉会させていただきます。

午前 11 時 59 分 閉会

文教福祉常任委員会委員長
